



～栄小学校運動会～

6月9日(日)に栄小学校グラウンドにて運動会が開催されました。

児童、PTA、先生の皆さんが額に汗して、綱引きや大玉転がし、リレーなど白熱した闘いでした。

結果は、赤組20点、白組20点で引き分けとなりました。

主な内容

- 栄村消防団ポンプ操法大会ほか …………… P 2
- 栄村金婚式・老人クラブ連合会総会ほか …… P 3
- 国民健康保険税について …………… P 5
- 令和元年度工事等契約状況について …… P 6
- 栄村職員募集ほか …………… P 11
- 公民館報(第329号) …………… P 14-21
- 北信広域連合広報紙『ふるさと北信濃2019夏号』 …… P 22-25



青倉歌の会

楽しく歌を
歌いましょう♪

公民館報

さかえ

第329号

令和元年7月1日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

今回、以前から活動されている青倉の「歌の会」に参加し取材をさせていただきました。

当日、青倉公民館で会に参加されている集落の方や声をかけられて一緒に来られた方々が集まり11名の参加で会が始まりました。代表の方からの小話から始まり、軽く身体を動かすストレッチをみんなでを行い、発声練習で口の体操を行いました。その後は、みんなが歌を歌う時間となりました。各自、同一の歌集を見ながら歌いたい歌をみんなで歌い始めました。歌の内容は「汽車」から始まり「むすんでひらいて」や「港」「すずめのがっこう」「大黒様」「朧月夜」「若葉」「田植」「かたつむり」「夏は来ぬ」「海」「うみ」と沢山の童謡を次々と歌い、最後は「信濃の国」と「村歌」を歌いました。歌の時間は、歌った歌の話しや次はどんな歌を歌おうかと、口々におしゃべりが弾みとして楽し気な雰囲気でした。歌の時間の後には、机を囲んでお茶のみが始まりました。各々が持ち寄ったものを食べお茶を飲みながら、近況を話したり、畑の話をしたり、持ち寄った物の話、

料理の話など会話が弾みおしゃべりに花が咲きました。

みんなで楽しく歌をうたい、そのあとのお茶のみでも各々が持ち寄ったものを食べながら、様々な話をみんなが楽しそうに話しているのがとても印象的でした。ただ、歌を歌うことだけではなく身体を健康と楽しくおしゃべりをする場としても、とても意義のある会でした。

青倉 歌の会のみなさんに 聞きましたQ&A

Q 会はどのくらいの頻度で開かれているのですか？

A 都合によりできない月もあるけれど、大体毎月1回は定期的に開けているわね。

Q 会に参加される人数は何人くらいなんです？

A 大体毎回7〜8人くらいは集まりますね。

Q 会の始まりはいつ頃なんです？

A 歌の会の前身は、約20年ほど前の「童謡の会」に始まります。その頃は、東部小学校の元先生が声をかけ、大勢の人が青倉公民館に集まって先生のお話を聞いたりみんなで歌を歌ったりしていました。その後、発起人の先生が亡くなり2年くらいの間、会は休止状態だったのを、みんなに声をかけ「歌の会」と改めて2009年頃から始めました。

質問を受けて答えてくださるときに、童謡の会に参加されていた方々が当時を振り返りながら楽しい思い出を口々に話して下さり、とても楽しい会だったのが聞いていて伝わりました。また、歌の会代表の柳静江さんは自身の童謡の会から改めて歌の会として始められ歌を歌う場としてだけでなくみんなで集まり楽しくおしゃべりしたりできる場としても大切にされている事を話して下さりました。

(取材 島田 遥)

こうつせ通信

長野県シニア大学北信学部 来館

6月19日(水)シニア大学教養講座「栄村の伝統技術や文化を知ろう」がこらっせで行われました。当日は受講生23名と担当職員2名で来館され、栄村ならではの冬の暮らし、伝統のワラ細工などについて学習しました。やはり、栄村のイメージとして一番に思い浮かぶものが雪国の冬の暮らしで、伝統的なワラ製品などは、ブランド価値があるようです。おなじものを持



つなら本場栄村のワラ製品が欲しいと話してくれました。

館内見学では、広瀬家の蔵の再現コーナー他、興味津々で、特に栄村の冬の暮らしに思いを馳せ、昔をしのいでいました。

一行は、北野の栄村自然植物園を見学し、ビーナジの会より活動の説明を受けお帰りになりました。

短期連載

「栄村自然植物園」と 故石澤進先生への思い

朱雁しゆ がん

私は現在、故石澤進先生の後を引き継ぎ「栄村自然植物園」の整備に関らせていただいている。今回から2回にわたり、植物園や石澤先生への思いをこの紙面でつづりたい。

栄村自然植物園を語ろうとする
と恩師の石澤先生と同時に、先生の著書『新潟県の木 雪椿』の巻頭に記されている新潟大学教授紙谷智彦先生の文が思い出されるのでその部分を紹介させて頂く。「冬の長い雪国では、春の訪れは何ものにも代えがたい喜びである。日

本の秘境と呼ばれたかつての秋山郷栄村は、冬のあいだ深い雪に閉ざされていた。早春のブナ林でいち早く姿をあらわす緑の低木は、豪雪に耐えた生命が営みを再開する合図にも思えただろう。残雪に映える鮮やかな新緑の森で、ブナの白い幹と対照的な緑の低木がいち早く咲かせる赤い花は、若者の脳裏に焼き付いていたに違いない。農学を志した若者は、新潟大学農学部に進学し、故郷で目にする低木が雪国に固有のユキツバキであることを知るようになる。その若者こそ、本書の編著者であり、のちに新潟大学理学部教授となる石澤進博士である。新潟大学の教官となった石澤先生は、その後、50年以上にわたって70編にもおよぶユキツバキに関連する論文や調査報告を世に出されている。」

石澤先生は誰よりもご自分の故郷を愛している。その思いは周りの人々にも強く伝わっている。今から35年前、「日本植物学会第50回」が、新潟で開催されたとき、先生は北京から来た中国代表団の方々に「我が郷里は自然に恵まれて植物の宝庫であり、地上の楽園である」と話された。先生の著書の中にも必ず栄村の色々な植物の写真とデータがある。そして、極

めつけは、口癖の「恵まれた自然は我が栄村の宝だ」「世の中に何が起きてても、我が栄村は生き延びれる」である。栄村の展望を全村植物園構想に懸けた先生を知る私にとつて、先生の60年にわたる多くの資料を活用し、先生の思いを十分に反映させた「栄村自然植物園」を村民の皆様と共に追求して行けたらと思っている。

(次号へ続く)



朱雁先生とボランティアの皆様

こうつせ来館者数

・来館者(本年4月～5月末) 386名
・オープン(平成28年8月)からの累計 6,727名

一石を投じる

栄村の集落について考える

栄村総合振興計画の集落支援の項目には、次のように記されています。

- ・「集落支援員」制度や地域おこし協力隊の等の活用により、集落と行政の連携を図りながら、集落の維持と活性化を進めます。
- ・集落の主体性を尊重し、栄村の暮らしや文化、風習、歴史などを次世代に伝え残していけるような支援の方法を研究していきます。
- ・集落活動費の補助や独自事業への支援を行います。また、集落整備事業の係る負担金等の軽減を図り、集落の環境整備促進を図ります。
- ・集落が必要とするボランティアの受け入れを促進し、集落とのつながりを深めた持続的な地域活動を支援します。

集落ってなんだ

私たちは、大宇宙のこの地球という星の上で、日本という国に住み、長野県の中の水内郡栄村で概ね31の集落に属して暮らしています。大きい集落にはこの他に組とかマキに属する場合もあるようです。その一員として我が家があり役割を果たしながら日々暮らしています。百世帯近い集落もあれば、戸数一桁が六集落もあります。

古くは約二万五千年前の大久保小坂遺跡に代表される旧石器時代の遺跡が11ヶ所。約五千年前の長瀬新田やひんご遺跡の縄文遺跡が32ヶ所確認されていますから、かなりの昔から「我ら相より村をなす」て暮らしていたことがわかります。

時代が移り、検地という現在でいう国土調査のようなことが行われ、土地を測定し、村の境界を明らかにし、税を取りやすくする事業が行われました。そんな中で生まれてきた自治組織が集落の始まりで、用水の共同管理、入交山の共同利用などを通して現在の集落の基が出来上がっていきました。厳しい自然環境の中で助け合いながら、そして規律を作り守りながら、喜び悲しみを分かち合いながら共

に暮らしてきました。

水道設備の無かった時代の集落内を流れる水路は生活に欠かせない水を送る生命線でした。現在でも水田や冬の消雪に使う非常に大切なもので、年に何度かの道水路普請は集落の大事な作業の一つです。集落の作業や行事はこの他にも多岐にわたります。年始の会から始まり、どうろくじん、雪上運動会、シツケマツリ、ウシマツリ、カザマツリ、祭礼、等々。その他に集落共有林の手入れをし、将来の備えにも心を配りました。冠婚葬祭も集落民で行いました。大切な水源や危険な箇所には立ち入らないよう、戒めや言い伝えで子どもたちにマナーを教えました。現在は生活様式も多様化し、忘れられた行事も数多くなっています。また、人口減少高齢化等により集落を取り巻く環境も大きく様変わりして、日中は勤めや学校で集落を離れる例がほとんどです。

自分と周りの人の幸せを追求して楽しく暮らす

山々に囲まれ、集落には清らかな水が流れ、林業にも農業にも恵まれた環境として栄えてきた我

が村栄村。ところが今「交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地」に当てはまるらしく、「へき地」に分類されるらしい。単純に「都から離れた片田舎」というならその通りだと思うが、社会的条件に恵まれないとはどんな定義だろう。人口、世帯数が少なく産業がない土地。私たちはこのへき地というレッテルを打破するなど無意味でナンセンスだけれど、人間にとって当たり前前の生活を楽しく幸せに送ることができる最高の場所に暮らしていることを知っています。ただその恵を十分に活用できていないだけなのです。栄村はへき地だからこそできることに磨きをかけて、飛び切りのへき地、過疎を逆手に取った楽しさを追求できるのです。自治体が税金使ってやるのは面倒でも、集落や個人でどんどん楽しいこと企ててほしいと思います。次から次へと楽しいこと考えて、集落の皆で楽しむ。面白ければ何だって楽しい。共同作業をするにしても、効率よく安全に、のほかに、いかに楽しく行えるか考えて

楽観的であるということは 顔を常に太陽に向け 足を常に踏み出すことである

ネルソンマンデラ

もいいと思います。作業後の慰労も、集落行事もマンネリ化しないことが大事ですね。楽しいことの情報発信も積極的に行い、見せびらかしてほしいと思います。

ある小さい集落がいつも花であふれているのでお話を伺ったところ、高齢の母が好きで育てていた草花を引き継いで手入れしているとのこと。自宅周りだけでなく集落全体がきれいになっています。道路脇に花を植えて育てていたら除草剤をかけられたこともあったと嘆いていましたが、自分の家に流れる水の側溝だから、と公共物の清掃も欠かしません。自分のできることを楽しんでやっているだけ、と謙遜されますが、こうした取り組みは他所でも見受けられ、行政に頼らない姿勢は素晴らしいと思います。

国会で紛糾した老後30年で必要な額が夫婦で2000万だとか？とても驚きました。一般的にはそうなのかもしれないけれど、くよくよ考えても仕方がない。栄村で暮らしていれば、食べるものはある程度自給できるし、いざとなったら山には燃料も豊富だし。とか楽観的に考えてしまいます。各集落に眠る地域資源の発掘、活用は、栄村震災復興計画にも掲げられて

群れは楽しいことを見せびらかしてつくる！

外遊びは生きる源

出ない杭は腐る

面白がれば何だって面白い

遊び8割の公民館

遊ばざる者働くべからず

丸くなるな星になれ

これは、栄村公民館のホワイトボードに書いてあるスローガンです。来館者の中には気に入ってくれてメモしていられる方も少なくありません。村がにぎやかになってほしいという願いでもあります。

いますが、いまだに十分見直されていないのが現状です。ところで、ほとんどの集落には共有林というのがあっていいのではないのでしょうか。忘れ去られている場合も多いと思いますが、何か楽しいことに使えないでしょうか。草のツルや、小枝で栄村らしいかわい小物、できないでしょうか。

小さい集落の将来

東部の最上流部にある坪野集落。長野県北部地震の後、特に人口減少が進んだ集落です。かつて山で稼ぎがあった最盛期には30数軒が豊かに暮らしていたといいますが、現在は戸数2戸、3人が暮らすのみです。しかし、事情が違って坪野集落に通年住むことが難しくなった人も集落機能維持※の

※集落機能維持

地域住民同士が相互に扶助しあいながら生活の維持・向上を図る生活扶助機能(例…冠婚葬祭など)、農林漁業等の地域の生産活動の維持・向上を図る生産補完機能(例…草刈り、道普請など)、農林地や地域固有の資源、文化等の地域資源を維持・管理する資源管理機能を果たしている。

総務省より

ため、通ってきて草刈りや水路普請などの作業をしています。何かあれば駆けつけて、助け合う機能はまだまだ維持されていると思います。今年からは、集落の共同作業を、同じように小規模な笹原集落と協定を結び、助け合いながら維持していくことになりました。公民館や神社・お堂等維持管理は多岐に及び課題は山積ですが、楽観的に進むのみです。そして、忘れてはいけないことは、栄村を愛する未来ある子どもたちの存在。美しい郷土を残していくことは、今の私たちの義務でしょう。



坪野区長と笹原区長

『鮭獲りの権利を売る』(七)

あーそんなことがあったんか、ど先生の栄村昔語り、其の三十三



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称: ど先生)
イラスト作成: 佐藤洋平

去年は六月末に梅雨明けになり、蚊も飛ばないくらいの暑熱になりましたが、今年七月下旬に梅雨明けと予報されています。皆さんいかがお過ごしですか。

前回は江戸時代前期の鮭運上の実際と、古文書に見える鮭の漁期のことをお話ししました。今回は、漁法と漁場について、あわせて税負担の変化についてお話しします。紹介するのは宝暦八年(一七一七)に森村の願主三名と庄屋、組頭から飯山藩の役人に宛てて鮭運上の減免を願った文書です。大体以下のような内容です。

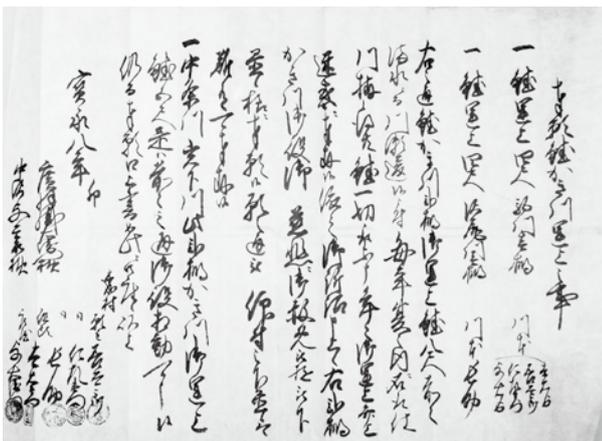
鮭かき川の運上のこと。駒川の一棚(川本四人持ち)の分の鮭運上四尺と沢尻川の一棚(川本一人持ち)の分の四尺ですが、前々から満水での川瀬違いのたびに、夏の間の石取り川拵えをしてきても、鮭が全然取れません。年々運上を弁え上げてきました。だが、この二棚の運上は赦免してくれるよう訴えます。なお中条川と岩下川の二棚の運上鮭五尺は前々の通り勤めます。以上のように口頭で申し上げます。

この古文書には鮭漁に関する情報がたくさん詰まっています。まず「鮭かき川」という呼び方から、搔き網漁を行なっていたことがわかります。搔き網漁は「北越雪譜」に詳しく紹介されており、それによれば搔き網は二股の木の枝の先を輪のように曲げて網を張った、長い柄のタモ網のようなもので、これで鮭をすくい取る漁法です。次に、森村には駒川・沢尻川・中条川・岩下川に一つずつ棚がある

り、それぞれに「川本」がいました。「北越雪譜」には川岸が崖のようになった場所に身を置くばかりの架をかけ、岸沿いに溯上する鮭を搔いたとあります。棚は架そのものを指すとも、一つの川筋に複数の川本がいることから、架をかければ確実に鮭が獲れる場所を指すとも考えられます。そして、棚を単位として鮭運上(事業税)が取り立てられていました。「川本」は棚の権利者であり、納税者と思われまます。「栄村史」には青倉村に三十人余の川子がいて、実際に鮭を獲り納税していたとあります。森村の場合、川本五人のうち二人は森村の庄屋・与右衛門と組頭・太右衛門らしく、そのことを踏まえれば、栄村域では権利を持つ川本と実際の漁撈につく川子がいたようです。

森村の鮭運上は合計十三尺で、慶安元年(一六四八)の二十四尺の半分になっています。棚単位で合計十三尺となったのはいつか。この願書には下書きが一通あり、それに手がかりがありました。清書の「年々運上を弁え上げ」の箇所が下書きでは「拾四年運上を弁え上げ」とあり、遡ると元禄九年(一六九六)の松平忠喬の飯山藩襲封と重なるので、この代替わり

の時に棚単位の運上になったと知られます。また日付も清書の「宝暦八年卯」に対して「卯三月」となっています。この年の二月に森村の属する飯山藩は永井家から青山家に替っているのです。森村の人々は、藩主の交替の際に運上の見直しを願ったのでしよう。それにしても、願書に書かれているとおりだとすれば、千曲川では流路の変遷が鮭漁に大きく影響し、川拵えをしても鮭が獲れず、不漁の際の代銀を取られるばかりの大変面白くない状況が続いていたようです。廃絶した棚もあるいはあったかも知れません。続きます。



川本五人の願書

図書室だより

学校や保育園ではプールの時間が始まって雨が気になる季節になりました。降らないのは困るし、太陽が全然出ないのも困ります。さて7/7は七夕。織姫様と彦星様が1年に1度会える日です。7/7は雨の確率が高く、二人が会えていないのではと思いきや、天の川が増水をしてカササギという鳥がやってきて橋になり二人を引き合わせてくれるという言い伝えもあるのです。この日の雨は『催涙雨・酒涙雨（さいるいう）』と呼び、会えなかった悲しみの涙、会った後の惜別の涙、会えたらうれし涙とのいわれがあります。一方、前日7/6に降る雨は、洗車雨（せんしゃう）といい彦星が織女を迎えに行くための牛車を洗った水が雨となって降ってくるからなのだそう。日本にはこのように雨を表す言葉が400語以上あるそうです。色々調べてみませんか。



高橋順子・文 小学館
▲雨の名前

保育園児への読み聞かせ



栄村公民館図書室に月に数回来てくださる図書館司書の荻原先生が、保育園の子どもたちに読み聞かせをしてくださいました。最初に工藤直子さんの『のはらうた』の中から「あいさつ」という詩を手作りのへびさんを登場させる演出で盛り上げました。続けて『どろんごハリー』『たんぼぼ』を読み、子どもたちはじっと本を見て集中して聞いていました。『たんぼぼ』は科学絵本ですが、子どもたちにとって非常に身近な植物なので興味を持って聞けたようです。次にたんぼぼで遊ぶとき、きっと見る目が変わりますね。



今年も小学1年生・ちゅうりっぷ組(3歳時)に絵本プレゼントを実施しました!

毎年、本を好きになってほしいと願いを込めて小学校1年生と物語を楽しめるようになる3歳児へ絵本のプレゼントをしています。1年生は6人全員がきちんとお礼を言って受け取っていました。ちゅうりっぷ組のみんなはちょっぴり緊張気味な表情でホールに整列し、館長とあいさつをし、名前を呼ばれて嬉しそうに本をもらいました。

本は心の栄養です。読書を通して未知の言葉をたくさん知ると、使える語彙が増えていきます。それが聞く、読むことへの理解の幅につながっていき、また自分が表現する時にも豊かな言葉を使って話しができ、文章を書くことができます。

知らない世界にどんどん触れて大きくなってくださいね。



▲当日お休みの2人も後日受け取りました!



▲▼公民館長とパチリ



★栄村図書室休館日★

連休やお盆があるので休館する日があります。ご迷惑をおかけいたします。

7/13(土)14(日)15(月) 8/4(日)10(土)11(日)12(月)17(土)18(日)

★栄村図書室開放時間★

〈平日〉午前8時半～午後5時 〈土・日〉午前9時～正午
※祝日は休館します

図書ボランティア募集中!

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。

1～2か月に1度の当番です。

お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。



年輪 158

島田福一さん

(83歳) 和山



学校を卒業してから、東京電力・営林署の仕事をしてきて、40歳の時に日本生命に入社した。そこで、5年目に上級所長になってうれしかった。上級所長になったとき、京都の都ホテルで社長の招待で京の舞妓さんを見せてもらった。田舎暮らしの私には珍しく、今でも良い思い出となっている。

その後、55歳で定年になり、栄村振興公社に9年間、雄川閣と栃川高原の温泉に勤務していた。同時に村の消防団に再入団をし、副団長を2年やり、団長を4年務めた。平成6年4月29日国から瑞宝単光章を頂戴し、皇居に頂きに参りました。栄村民のお陰だと感謝しています。

普段、運動のために山ブドウのツルと目薬の木を採りに行き、たわしを作って村のお店に置いて頂いている。これからは、老体に鞭打って村のためになることをやっていきたいと思う。

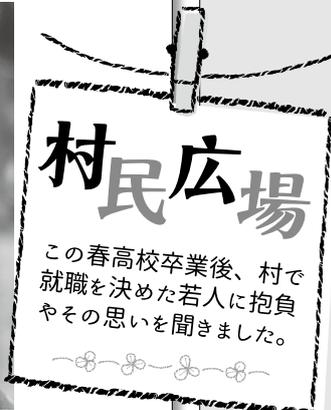
〈村に一言〉

切明の雄川閣の建物を残していただきたい。私も一時携わっていたので…。



廣瀬若菜 (18歳) 森

仕事の内容を少しずつ覚えながら体調に気を付けて仕事を毎日頑張りたいです。



上倉琉已 (19歳) 横倉

一日でも早く仕事に慣れ、社会に貢献できるような人材になりたい。栄村のためにできることをしていきたい。



高橋優太 (18歳) 青倉

仕事の流れをつかんでスムーズに進めていけるように頑張ります。趣味の時間も大切にしていきたいです。



齋藤碧人 (18歳) 長瀬

今まで育ってきた栄村に感謝の気持ちを込めて恩返しをしたいと思い村に残りました。栄村のために自分ができることをしていきたいです。

集落公民館だより

長瀬集落の重屋に明治〜大正のものと
思われる、演劇の舞台に使われた屏
風が保管されていました。現在は長瀬
公民館で保管されています。

一枚が高さ約180cm、横が約90cm
で10枚組の大きなもの。
当時は春、雪の上を舞台にして劇を
やっていたようです。



今月の一句〜栄村俳句会〜

梅雨の夜や痛む足亡きなで父母思う

山田政治

春の花秋山郷は別世界

山田せき

新緑やかわるがわるに抱くひまご

福原勇一

赤黄青ゴムボート行く千曲川

斉藤はる子

雲染めて梅雨満月の出でにけり

関谷貞子

幼児の歯生え初むる五月かな

馬場澤子

ふちどりの紫可憐大根の花

柳 静江

山緑梅雨に濡れつつ進む時

大塚幸一

三才児服ぬぎすててカエルとり

杉浦恵子

村の七夕

7月7日は七夕の日ですね。『栄村史塚編』には村の七夕として「(今は月後れ八月七日)五色の紙を切りて青竹の枝につけて、牽牛織女を祀る。今はすたれて、七日日と称して菩提寺に生霊を迎えに行く。」とあります。どのように行ったのでしょうか。



編集後記

栄村の四季のうつろいと人の温かさに魅了され、嫁いではや四半世紀。人口は約半分になりましたが、おかげさまで我が身は大きく育てられました。

さて、今年の春からの天候不順はこれまでに感じたことが記憶にありません。26年目の秋が無事に終わることが出来ますように。御天道様お願いします。(和)

【訂正のお知らせ】

前号公民館報さかえ3228号21ページ1行目誤「50周年記念行事の参加者は」正「50周年記念行事の参加者に」



ふるさと北信濃

2019・夏号 vol.43

ホームページアドレス <http://www.hokusin.or.jp/>
 信越自然郷ホームページ <http://shinetsu-shizenkyo.com/>

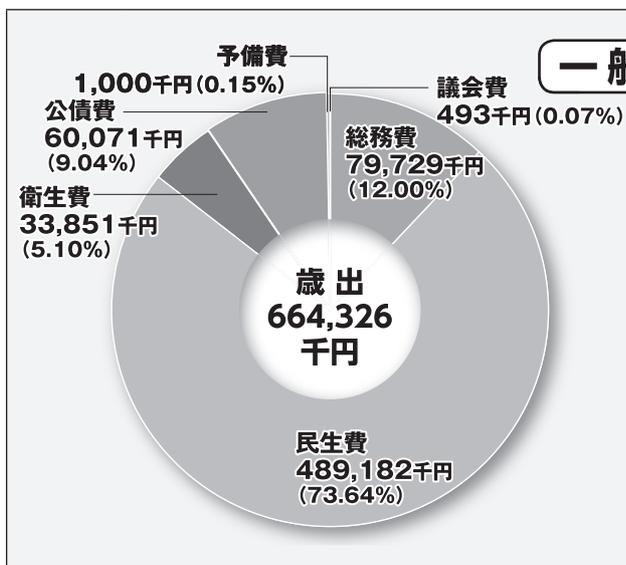
発行/北信広域連合 令和元年6月発行 〒389-2101 長野県中野市大字豊津2508 中野市豊田支所内 TEL.0269-38-5050 FAX.0269-38-5051 Eメール:kouiki@hokusin.or.jp

北信広域連合 令和元年度予算の概要

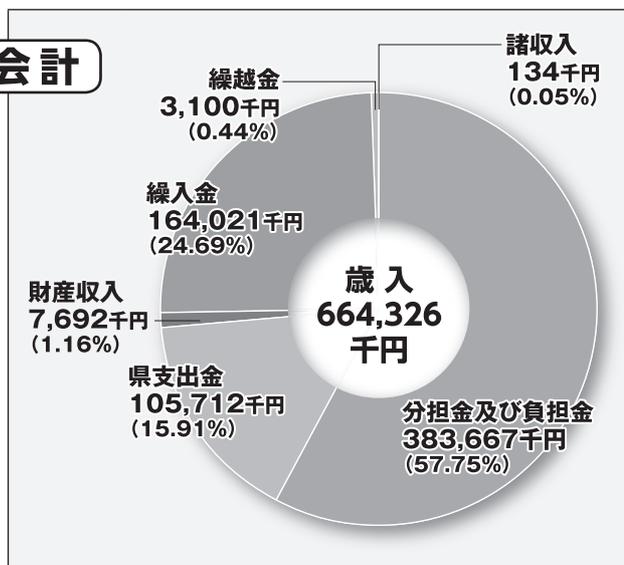
総額27億7,009万円の令和元年度（平成31年度）予算が連合議会 2月定例会で成立しました。

一般会計では、飯山市に新しい老人ホームを建設する、老人ホーム施設整備事業に4億4,316万円、特別養護老人ホーム建設資金の借入金返済に6,007万1千円を計上しました。

特別会計では、老人ホーム施設整備、特別養護老人ホーム望岳荘の屋根塗装工事及びふるさと苑のナースコール等設備改修工事のほか、各施設設備の改修、介護ベッドの更新、車いすの購入など介護用品の更新・購入等の予算を計上し、より一層の介護サービスの充実を図ります。



議会費	議会運営のための経費 (議員数23人、定例会は年2回)
総務費	事務局の運営や広域連合全般の事務を行うための経費
民生費	介護認定審査会(委員数36人)・養護老人ホームへの入所判定委員会・特養の入所検討委員会等の運営や老人ホーム施設整備のための経費
衛生費	病院群輪番制病院への運営費補助
公債費	老人ホームの建設のために借入れをした資金の償還



分担金及び負担金	北信6市町村からの分担金等 (各市町村からの分担金の割合は、事業を行うために必要な金額を、平均割25%、前年の10月1日現在の人口を基礎とした人口割75%で主に計算)
県支出金	老人ホーム施設整備のための補助金
財産収入	地域振興基金の運用利子収入
繰入金	特別会計からの繰入金
繰越金	平成30年度会計からの繰越金
諸収入	雑入

特別会計 [2,105,764千円]

(単位:千円)

養護老人ホーム高社寮	173,441
養護老人ホーム千曲荘	118,436

特別養護老人ホーム望岳荘	443,000
特別養護老人ホーム千曲荘	366,652
特別養護老人ホームいで湯の里	324,793
特別養護老人ホーム菜の花苑	321,311
特別養護老人ホームふるさと苑	358,131

福祉のお知らせ

平成30年度 特別養護老人ホーム入所者の状況

1. 市町村別新規入所者数 (平成30年4月～平成31年3月)

	中野市	飯山市	山ノ内町	木島平村	野沢温泉村	栄村	その他	計
合計	29	43	25	6	5	0	0	108

2. 市町村別入所者数 (平成31年3月31日現在)

	中野市	飯山市	山ノ内町	木島平村	野沢温泉村	栄村	その他	計
望岳荘	15	46	15	11	2	1	0	90 (91)
千曲荘	8	31	9	4	7	0	0	59 (60)
いで湯の里	28	6	28	1	4	0	0	67 (70)
菜の花苑	11	29	8	5	8	0	1	62 (62)
ふるさと苑	20	28	17	4	1	1	0	71 (71)
計	82	140	77	25	22	2	1	349 (354)

- ・ () 内の数値は各施設の定員数
- ・ 入所者数が定員に満たない施設の欠員については、31日時点で入所調整中によるものです。

平成30年度 養護老人ホーム入所者の状況

1. 市町村別新規入所者数 (平成30年4月～平成31年3月)

	中野市	飯山市	山ノ内町	木島平村	野沢温泉村	栄村	計
計	1	2	0	0	0	0	3

2. 市町村別入所者数 (平成31年3月31日現在)

	中野市	飯山市	山ノ内町	木島平村	野沢温泉村	栄村	計
高社寮	21	1	2	1	2	0	27 (50)
千曲荘	4	20	1	1	1	2	29 (50)
計	25	21	3	2	3	2	56 (100)

- ・ () 内の数値は各施設の定員数

老人ホーム建設に関する報告



新施設外観イメージ (提供: 株式会社アーキプラン)

中野市の老人ホーム高社寮と飯山市の老人ホーム千曲荘を統合し、飯山市城北中学校の南に新たに建設する老人ホームは、昨年9月から行っていました設計業務が終了し、これから工事の発注へと進みます。

現在は、発注に向けての準備を進めており、工事期間は令和元年9月頃から令和3年1月頃になる予定です。

今後工事を行っていくにあたり、工事車両の通行など、近隣住民の皆様には何かとご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



福祉のお知らせ

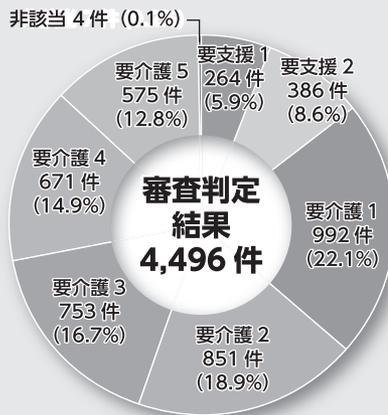
介護認定審査の状況

平成30年度の介護認定審査会による審査判定状況についてお知らせします。

審査会は、年間148回開催し、1回の審査会で30件程度の案件を審査しました。

市町村別審査件数と審査判定結果
(期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日)

市町村	審査件数
中野市	1,939
飯山市	1,273
山ノ内町	741
木島平村	252
野沢温泉村	158
栄村	133
計	4,496



介護認定審査会は、審査対象者について、認定調査票のうち「基本調査」及び「特記事項」並びに「主治医意見書」に記載された主治医の意見に基づき、介護の手間にかかる審査判定を行い、要介護状態等区分を決定しています。

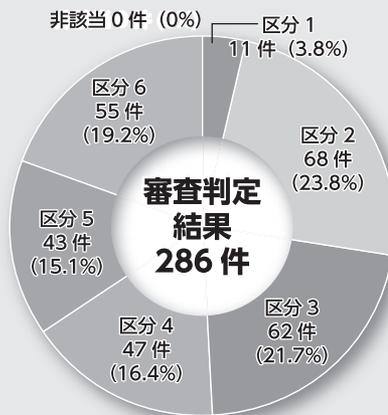
障害支援区分認定審査の状況

平成30年度の障害支援区分認定審査会による審査判定状況についてお知らせします。

審査会は、年間14回開催し、1回の審査会で20件程度の案件を審査しました。

市町村別審査件数と審査判定結果
(期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日)

市町村	審査件数
中野市	133
飯山市	77
山ノ内町	38
木島平村	16
野沢温泉村	11
栄村	11
計	286



障害支援区分とは、身体障がい、知的障がい、精神障がい、難病をお持ちの方の障がいの多様な特性や、その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示すものです。

「北信広域連合広域計画(第5次)案」に関する意見募集について

北信広域連合では、広域計画(第5次)(令和2年度～令和6年度)の策定を進めています。計画をよりよいものにするために、今後、皆様からのご意見を募集する予定です。

意見募集を開始する際には、北信広域連合のホームページでお知らせします。

